

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	卵巣癌における SLFN11 発現の臨床的意義の解明
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2006年1月1日から2019年12月31日の間に当院で卵巣癌と診断され、手術または生検を施行された方が対象になります。
③ 概要	卵巣癌の抗癌剤治療で標準治療に用いられるプラチナ製剤の治療効果を予測する手段は現在確立されていません。これまでの卵巣癌細胞株を使った研究で SLFN11 というタンパク質が腫瘍で発現しているかどうかプラチナ製剤の有効性を予測する因子になる可能性がわかってきています。本研究では、手術で摘出した検体を利用して SLFN11 の発現を調べ、プラチナ製剤の治療効果と SLFN11 の発現との関係を解明することにしました。
④ 申請番号	
⑤ 研究の目的・意義	当院で手術または生検で摘出した腫瘍検体を使用して、免疫組織染色で SLFN11 の発現の有無を調べます。腫瘍における SLFN11 発現と臨床的予後との関連を調べることで、SLFN11 の卵巣癌における臨床的な意義を明らかにしていきます。 今後プラチナ製剤の治療効果を予測するマーカーとして臨床応用につながる可能性があります。
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から2023年3月31日まで
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	2006年1月1日から2019年12月31日の間に卵巣癌で手術または生検を受けた患者さんについて、診療録より、病歴、手術検体、血液検査結果、CT・MRI 検査結果を抽出し、腫瘍における SLFN11 発現との関連性を調べさせていただきます。 使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行います。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧ 利用または提供する情報の項目	病歴（年齢、生存情報、手術・抗癌剤使用などの治療内容）、血液検査結果、CT 検査、MRI 検査、手術検体
⑨ 利用する者の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科産婦人科 吉原弘祐、谷地田希、明石英彦 共同研究機関：慶応義塾大学先端生命研究所 特任准教授 村井 純子
⑩ 試料・情報の管理について	〒951-8510 新潟市旭町通1-757

て責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 産婦人科 教授 榎本 隆之 TEL 025-227-2320 FAX025-227-0789
① お問い合わせ先	産婦人科 吉原 弘祐 Tel : 025-227-2320 E-mail : yoshikou@med.niigata-u.ac.jp

フリーメールアドレスの使用は避けてください。